

編：大塚 篤司

まるごとアトピー

アトピー性皮膚炎の病態から最新薬剤、患者コミュニケーションまで

書評者：福島 聡(熊本大学病院教授・皮膚科)

羊の皮を被った狼のような本である。

「羊の皮を被った狼」という言葉は、新約聖書からの出典で「羊のような身なりで近づいてくるが、その内は貪欲な狼のような者もいるから気をつけなさい」という警句である。そこから転じて、例えばクルマ好きの間では「見かけは平凡でも、中身はスポーツカー顔負けのクルマに対して、敬意をもって使われる言葉」となる。

本書はまさしくそういう本である。

白くて可愛い装丁。小振りなので診察室の机においても邪魔にならない。挿絵もカラーできれいだ。

ところが内容はまさに狼なのである。

『まるごとアトピー』というだけあって、アトピー性皮膚炎の最新情報はこの一冊に全て入っている。読者の皆さんにはできれば通読をお勧めするが、忙しくて時間

のない方は、太字になっている大事なことだけさっと斜め読みするとよい。アトピー性皮膚炎の患者さんに質問されて、自信を持って答えられなかったときなどは、目次や索引から瞬時に知りたい項目に飛べばよい。

どの項目もとてもわかりやすい。分担執筆者を見て納得である。その道のプロが書いているので、当然なのだ。そして、かゆいところに手が届く。いや、この表現はアトピー性皮膚炎の本の書評としてはまずいか……。かゆくなくようにする、かかないで済むようにするための本である。

話を戻そう。とても配慮が行き届いた本なのである。例えば、「知っておきたいアトピー性皮膚炎の病理」の項目に菌状糸肉症の病理組織が載っていた。アトピー性皮膚炎だけでなく、鑑別すべき疾患の病理組織が載っていることに感動した。また読んでいて、「この新薬ってどんな薬だったっけ?」と思ったときにも、「ネモ

リズマブ(p.227 参照)」などと書かれてあるので、すぐに知りたい項目に飛べる。細やかな心配りだ。

そして、なにより各章の最後に載っている「おつか先生のつぶやき」が秀逸である。各章の内容についてナナメ上からコメントしたり、ツボを教えてくれたりする。例えば漢方の章を読んで、「うーん、やっぱり漢方は難しいなあ」と思ったところに、「使える漢方を1つずつ増やすと、アトピー性皮膚炎治療の幅が広がりますよ」とつぶやいてくれる。「ああ、そうか、1つずつでいいんだ」と思うことができる。

いやはや、恐れ入った。

やはり、羊の皮を被った狼のような本なのである。

● A5・頁344 2022年10月
定価：5,280円
(本体4,800円+税10%)
[ISBN978-4-260-04978-8]
医学書院刊